

聖書日課 『からし種』 2024.8.4-8.11

<p>8月4日 (日) イザヤ 58章</p>	<p>「人はあなたを『城壁の破れを直す者』と呼び／『道を直し、人を再び住まわせる者』と呼ぶ」(12節)。あちこちに分裂と分断がある社会の中で、イエスは私とあなたとの関係の破れを直し、意志疎通の道を再び通じさせ、私の心にあなたを、あなたの心に私を住まわせてくださる。私とあなたの間立つ十字架の上で、父なる神に執り成し祈ってくださる。</p>
<p>5日 (月) イザヤ 59章</p>	<p>「彼らは平和の道を知らず／その歩む道には裁きがない。彼らは自分の道を曲げ／その道を歩む者はだれも平和を知らない」(8節)。これが、主の目に映る私たちの姿。誰もが平和を望みながらも、自分の欲する「平和」への向きに道を曲げてしまっていないだろうか。私たちの十字架を背負ってくださるイエスについていく道を歩みたい。</p>
<p>6日 (火) イザヤ 60章</p>	<p>「かつてあなたは捨てられ、憎まれ／通り過ぎる者もなかったが／今、わたしはあなたをとこしえの誇り／代々の楽しみとする」(15節)。私たちそれぞれ、捨てられ憎まれた孤独な心に主の温かい視線を感じ、御手に心を拾われて、信ずる者とされた身ではないだろうか。今それを思い出し、同じ境遇の誰かに、主とともに目を向け、手を伸べていけますように。</p>
<p>7日 (水) イザヤ 61章</p>	<p>「あなたたちは二倍の恥を受け／嘲りが彼らの分だと言われたから／その地で二倍のものを継ぎ／永遠の喜びを受け」(7節)。嘲りを受け恥辱を与えられた人々への、神の慰めと回復の約束。傷ついた人への神の言葉が優しければ優しいほど、私は何気なく使ってしまう言葉の残酷さを知らされる。神の愛が大きいほど、私の心の小ささを思わされる。</p>

大井バプテスト教会

メール配信登録メール senforn.obc@gmail.com

聖書日課 『からし種』 2024.8.4-8.11

<p>8日 (木)</p> <p>イザヤ 62章</p>	<p>「昼も夜も決して黙してはならない。主に思い起こしていただく役目の者よ／決して沈黙してはならない」(6節)。主は、なぜ世の苦しみに「沈黙」されるのか。それは、人の執り成しを待っておられるからではないか。昔は祭司、預言者、詠唱者などに任された執り成しの役割が、今は等しくキリストの祭司とされた私たちに任されているのではないだろうか。</p>
<p>9日 (金)</p> <p>イザヤ 63章</p>	<p>「あなたはわたしたちの父です。アブラハムがわたしたちを見知らず／イスラエルがわたしたちを認めなくても／主よ、あなたはわたしたちの父です」(16節)。前章までの神の言葉に応答する民の祈り。旧約の父祖アブラハムやイスラエル(ヤコブ)に約束された祝福に値しない自分たちをも、なお顧みてくださるように、と主なる神に叫ぶ切なさが心を打つ。</p>
<p>10日 (土)</p> <p>イザヤ 64章</p>	<p>「わたしたちは皆、汚れた者となり／正しい業もすべて汚れた着物ようになった。わたしたちは皆、枯れ葉のようになり／わたしたちの悪は風のように／わたしたちを運び去った」(5節)。旧約の悔い改めの祈りは本当に悲痛だが、つい自分の正義を主張しがちな心には厳かに響く。キリストが罪を担ってくださるからこそ歩んでいけることを思い出したい。</p>
<p>11日 (日)</p> <p>イザヤ 65章</p>	<p>「わたしに尋ねようとしないう者にも／わたしは、尋ね出される者となり…わたしの名を呼ばない民にも／わたしはここにいる、ここにいると言った」(1節)。主の愛に背を向け、「思いのままに良くない道」を歩んで滅びを招いたイスラエル。その姿はまさに私たちのそのものだ。それでも今日「絶えることなく手を差し伸べて」おられる主のもとに集い、礼拝をささげよう。</p>